

市民はごみの廃棄者だが海洋ごみの解決者にもなれる



山陽学園中学校・高等学校 地歴部

1. 生活ごみから海洋ごみへ

Before
飲み干す前は大切なもの

After
飲んだ後はただのごみ

1個のペットボトル

約15,000個のマイクロプラスチック

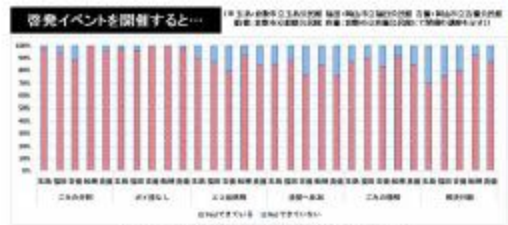


2. 現状と課題

手島(丸亀市沖)海ごみぞの大作戦
ごみ収集車と除き分けのごみ回収

日本学術会議での活動報告
一歩一歩進めて環境改善

「場所」「回数」「参加者」「人数」「意識」が限定



3. 解決策「シビック・テック」

- ① 市民を巻き込んだ「市民協働」の取り組み
 - ② 市民が取り組みやすい仕掛け作り
 - ③ 市民の海洋プラスチックごみ問題への「解決貢献意識」「美化意識」の醸成
- 誰でも
簡単に
速い甲斐

シビックテック【Civic Tech】

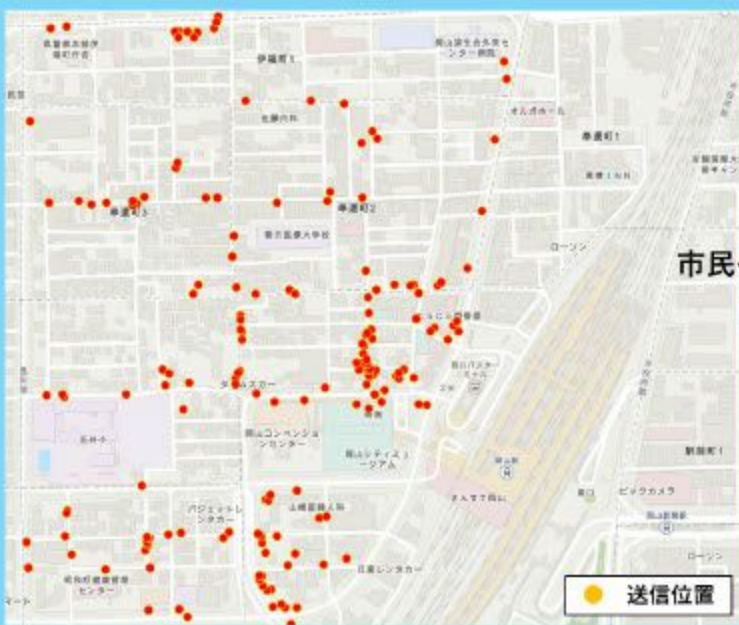
市民自身(Civic)がテクノロジー(Tech)を活用して、社会課題を解決する取り組み

1人の100歩ではなく100人の1歩の取り組み

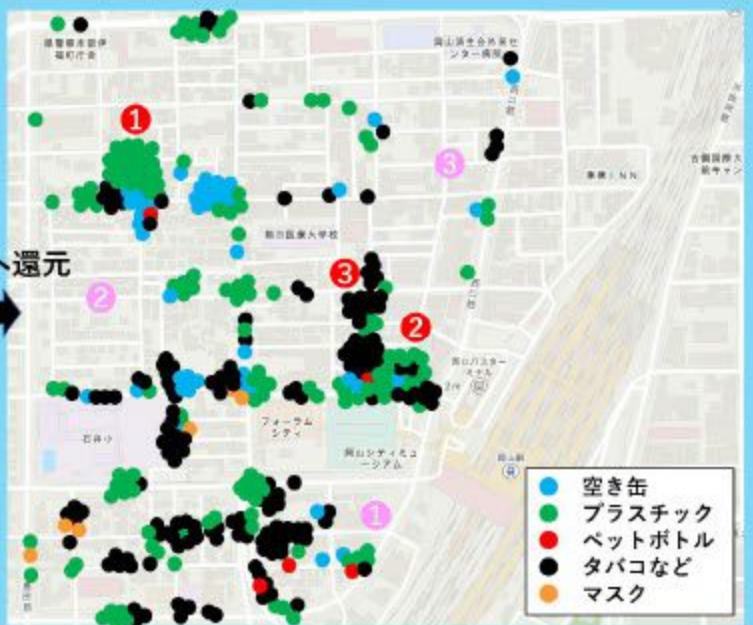
啓発イベントへ参加した市民の意識調査結果

問題を自分事として捉える
高い意識を持つ市民、行動力のある市民が参加が目立つ

市民が隙間時間(通勤通学・散歩・買い物時間)に見つけた
散乱ごみの種類・個数・位置情報などを送信する



市民の送信データ



ごみMAP

【ごみの多い場所】理由: 1. 人通りが少なく、容易に隠せるため 2. 手元からごみが離れて片づけられるため

① 商店街の人通りが少ない用水路 ② 飲食店・コンビニの周辺 ③ 屋外のコインパーキング ※道路の側溝の中



【ごみの少ない場所】理由: 1. 管理や清掃活動が行き届いているため 2. 人目につくため

① 岡山駅前や大型施設周辺 ② 昔からの街並みが残る住宅地 ③ 人通りの多い商店街・新しい町並みの地域

- 【結果】
1. ごみの多い場所と少ない場所にはそれぞれ理由がある
 2. 安易なポイ捨てが目立つ(集積場所は同じ傾向)
 3. ごみが人の手元を離れる際の自覚が重要
 4. 捨てさせない工夫も必要
 5. 美しいマナーが美しい街や美しい瀬戸内海を作る

- 【考察】
- ① 高い返信率(スマホの活用)
⇒ 若い世代の参加が目立つ
 - ② 回収活動ではなく、散歩等のついで
⇒ 隙間時間の活用
【ハードルの低さ、フットワークの軽さ】
 - ③ 現状認識
⇒ 「ごみがあった」評価
【市民の気づき、認識】
 - ④ ごみの位置情報・ごみの種類・ごみの個数からの分析
【ごみのホットスポット】の明確化
※河川・水門・住宅地・繁華街など
 - ⑤ 市民の速い甲斐に繋がる
【綺麗になった】(美化意識)「役立った」(貢献意識)

【まとめ】

シチズンサイエンス(市民科学)の力で
海洋ごみ問題解決へ

- ① 市民が「シビックテック」で収集したデータが基礎データになる
- ② ごみMAPは普段の清掃活動で活用される
- ③ 市民はごみの「廃棄者」であるが、協働による問題解決と達成感で「解決者」になれる!